

看護学課題研究（母性看護学）

[研究] 2年 通年 選択 180時間 6単位

《担当者名》常田美和[tsuneta@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

科学的根拠に基づく対象の理解（母性看護領域中でも周産期を中心とする母子や家族）の理解と看護実践を目指し、看護の分析や新しい看護方法の開発に取り組む。特論、演習、臨地実習、文献検討などを通し研究テーマや課題を明確にした上で、研究計画を立案、適切な研究方法により倫理的配慮に基づいた看護研究を行うことができる基礎的能力と研究の成果を実践に生かすことができる力を養う。看護実践を数量化・あるいは客観的なデータ化できる能力の獲得を目指す。

【学修目標】

母性看護領域における研究課題を見出し、一連の研究プロセスに沿って研究課題に取り組み、論文を作成することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	研究課題の明確化	以下のような母性看護領域における先行研究の知見を踏まえて自己の研究課題を明確化する ・周産期を中心とする母子や家族に対する看護 ・母性・助産看護領域の看護行為 ・妊娠・分娩・産褥期における新しい看護方法の開発や効果測定 ・出生前・着床前診断などの母性看護学領域における生命倫理に関すること	常田
	研究計画書の作成	1) 研究課題の達成に適した研究デザインを選択する。 2) 研究倫理指針に則り、倫理的配慮の具体的な方法を研究計画書に記載する。 3) 実現可能で看護上の意義が明確である研究計画を作成する。	常田
	データ収集の準備・実施・分析	1) 倫理的配慮に基づいたデータ収集を行う。 2) 研究目的に沿ってデータの分析を行う。	常田
	論文の作成と公表	1) APA論文作成マニュアル等の書籍を参考にして、研究成果を論文にまとめる。 2) 論文審査およびポスターセッションに向けて、研究成果を公表するためのプレゼンテーション技術を学ぶ。	常田

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

研究の準備状況、取り組み姿勢が30%、論文審査基準に基づく最終審査試験の評点が70%。

【学修の準備】

学生が計画したスケジュールに沿って、主体的に学修を進めるとともに、その時点での進捗状況および課題を簡潔に報告できるように準備して臨む。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。